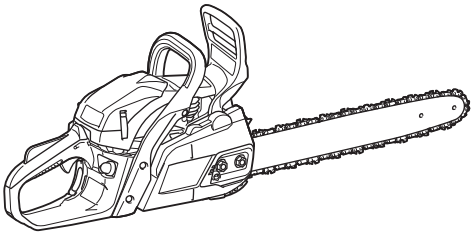
エンジンチェンソー
取扱説明書

モデル MEA3600M
モデル MEA3600L



このたびは**エンジンチェンソー**をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。
ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。
なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

目次

国内排出ガス自主規制について - - - - 2
シンボルマークについて- - - - - - - - - 3
エンジン製品の安全上のご注意 - - - - 4
エンジンチェンソーの安全上のご注意 - - - 7
仕様 - 10
各部の名称 - - - - - - - - - - - - - - - - 11
・標準付属品- - - - - - - - - - - - - - - - 11
別販売品のご紹介 - - - - - - - - - - - - 12
使用準備 - - - - - - - - - - - - - - - - - - 13
・ガイドバー、チェーン刃の取り付け方 - - 13
・チェーン刃の調整 - - - - - - - - - - - - 15
運転 - 17
・燃料の給油- - - - - - - - - - - - - - - - 17
・チェーンオイルの給油 - - - - - - - - 19
・始動・停止- - - - - - - - - - - - - - - - 20
・チェーンブレーキ - - - - - - - - - - - - 24
切断作業 - - - - - - - - - - - - - - - - - - 25
・◎基本的な作業- - - - - - - - - - - - - 26
・◎各種の切断作業例 - - - - - - - - - 26
点検と整備 - - - - - - - - - - - - - - - - 28
・チェーン刃の目立て - - - - - - - - - 29
・チェーンオイル吐出口の清掃 - - - 31
・ガイドバーの清掃 - - - - - - - - - - - 31
・チェーンカバーの清掃 - - - - - - - - 32
・スプロケットの点検 - - - - - - - - - 32
・エアクリーナの清掃と取り替え - - 33
・燃料フィルタの清掃と取り替え - - 34
・マフラ固定ネジの確認 - - - - - - - - 35
・スパークアレスタの確認 - - - - - - 36
・シリンダ周りの清掃 - - - - - - - - - 37
・スタータ - - - - - - - - - - - - - - - - - 39
・スパークプラグの点検と整備 - - - 39
・キャブレタ（気化器）の調整 - - - 39
・寒冷時の運転 - - - - - - - - - - - - - - 40
格納方法 - - - - - - - - - - - - - - - - - - 41

国内排出ガス自主規制について

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。
本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。
http://www.lema.or.jp/

シンボルマークについて

・ 製品および取扱説明書にシンボルマークを記載しております。このシンボルマークの意味をご理解の上ご使用ください。

ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。

保護めがね、耳栓、保護帽などの保護具を着用してください。

混合燃料

通気の悪い場所では運転しないでください。

チェーンオイル

燃料の混合、給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどは、タバコを吸わないでください。

エンジンを停止してください。

燃料の混合、給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどは、火気を近づけないでください。

ガイドバーの先端での切断はしないでください。

両手で確実にハンドルを保持し、片手では作業しないでください。

注意文の ⚠ 警告 ・ ⚠ 注意 ・ 注 の意味について

ご使用上の注意事項は ⚠ 警告 と ⚠ 注意 ・ 注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

⚠ 警告 ：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠ 注意 ：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。
なお ⚠ 注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注 ：製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なご注意。

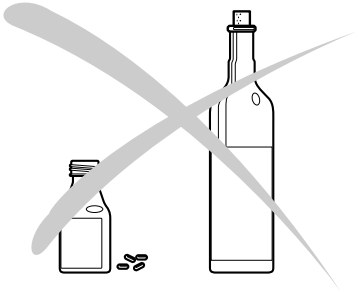
エンジン製品の安全上のご注意

- 引火、火災、けがなどの事故を未然に防ぐために、「エンジン製品の安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「エンジン製品の安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に必ず保管してください。
- 他の人に貸し出す場合は、いっしょに取扱説明書もお渡しください。

⚠ 警告

1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
   - 本機の取り扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。

2. 安全装置を取りはずしたり改造は絶対にしないでください。
   - 事故やけがの原因になります。
3. 事故の原因になります。次のときは本機を使用しないでください。
   - 疲れているとき、身体が不調なとき。
   - 酒類や薬物を飲んで正常な運転操作ができないとき。



4. 使用時は常に防振手袋、保護めがね、耳栓、保護帽（ヘルメット）を着用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
   - けがの原因になります。
     また手ぬぐいやタオルを首から下げて作業しないでください。
     袖や裾の締りのよい服装をしてください。
   - 回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
     身体を冷やさないような服装で作業してください。

⚠ 警告

5. **エンジンの排気ガスは有害です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で、使用しないでください。**
・ 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。

6. **作業場は十分明るくしてください。また作業は視界のよい日中のみ行ってください。**
・ 暗い場所での作業は事故の恐れがあります。
7. **雨上がりなど足元が滑りやすい場所では、使用しないでください。また、常に足元に注意し、バランスが保てる無理のない姿勢で使用してください。**
・ 転倒して、けがの原因になります。
8. **燃料の取り扱いには十分注意してください。**
・ 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。
・ 身体に異常を感じた場合は、直ちに専門医に相談してください。

9. **引火・火災の恐れがあります。**
・ 燃料の持ち運びや保管、取り扱いには十分注意してください。
・ 燃料の混合、給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどは、通気のよい場所で行い、タバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

・ 燃料の給油および燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
・ 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
・ 燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも３ｍ以上離れてください。
・ ガソリン、ガス、塗料、接着剤など引火性のあるものの近くでは、使用しないでください。
・ マフラの排気口付近は高温になりますので、燃えやすいものは近づけないでください。
10. **始動時および使用中には、スパークプラグやプラグコードに手を触れないでください。**
・ 感電する恐れがあります。
11. **使用中、本機の調子が悪かったり、異常音が発生したときは、直ちにエンジンを停止させ使用を中止し、お買い上げの販売店または当社営業所に点検・修理をお申し付けください。**
・ そのまま使用していると、けがの原因になります。

⚠ 注意

1. 損傷した部品がないか点検してください。
・ 使用前に損傷した部品がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
2. 調節キーやレンチなどは、必ず取りはずしてください。
・ 付けたままでは飛び出して、けがの原因になる恐れがあります。
3. 騒音に関しては、法令および各都道府県の条例で定める騒音規制があります。状況によって、しゃ音壁を設けて作業してください。
4. エンジンの始動時は、周囲の人や障害物に十分注意して必ず一人で操作してください。
・ 事故の原因になります。
5. エンジンの始動は、安定のよい場所で行ってください。
・ 事故の原因になります。
6. 使用を中断したり、移動するときは必ずエンジンを停止させてください。また、エンジンをかけたまま放置しないでください。
・ エンジンをかけたままですと、事故の原因になります。

7. 使用時およびエンジン停止直後は、マフラなどの高温部に身体が触れないように注意してください。
・ やけどの原因になります。
8. 点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また､スパークプラグからプラグキャップをはずしてください。
・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による、事故の原因になります。

9. 付属品および交換される部品は、必ず指定されたマキタ純正品をご使用ください。
・ マキタ純正部品以外のものを使用されますと、事故やけがの原因となる恐れがあります。
10. いつも安全に能率よくご使用いただくために定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと事故やけがの原因になります。

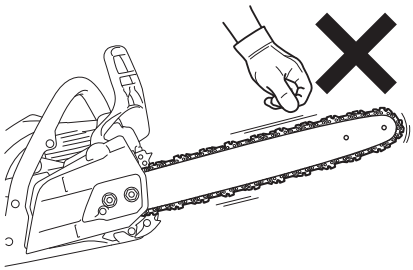
エンジンチェンソーの安全上のご注意

先にエンジン製品としての共通の注意事項を述べましたが、エンジンチェンソーとして、さらに次の注意事項を守ってください。

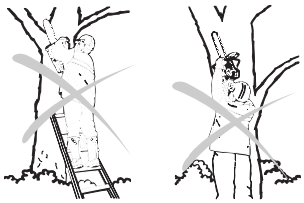
⚠ 警告

1. **本機は、木材や木製品の切断を目的とした機械です。この目的以外には、使用しないでください。**
   - 目的以外で使用されますと、けがや事故の原因になります。
2. **チェーン刃は、取扱説明書に従って正しく取り付け適正な張りに調整してください。**
   - 誤った取り付け方をしたり、チェーンの張り方が緩いとガイドバーからチェーン刃がはずれ、けがの原因になります。
3. **使用時は、両手で確実にハンドルを保持し、片手では作業しないでください。**
   - 本機をコントロールできず、けがの原因になります。

4. **使用中は、チェーン刃、ガイドバーや回転部に手や顔などを近づけないでください。**
   - けがの原因になります。



5. **使用時は、チェンソーの後ハンドルを右手、前ハンドルを左手でしっかりと保持してください。**
   - 的確な操作ができず、事故の原因になります。
6. **はしごや木に登って作業するなど、不安定な姿勢で使用しないでください。また、肩の高さより高い位置で使用しないでください。**
   - けがの原因になります。



7. **ガイドバーの先端部での切断はしないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないように作業してください。**
   - 本機がはね返り（キックバック）、けがの原因になります。

⚠ 警告

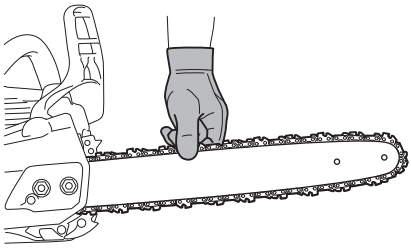
8. 誤って落としたり、ぶつけたときは、チェーン刃、ガイドバーや本機などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
   - 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
9. チェーン刃は、正しく目立てしてください。
   - 特にデプスゲージの寸法が大きくなりすぎますと、本機のはね返り（キックバック）発生の危険性が高くなります。

10.〔事業者の方へ〕
樹木を伐り倒す作業や伐り倒した樹木を切断する作業を行う場合は、法、規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

（関連法令）
労働安全衛生法第 59 条第 3 項
安全衛生特別教育規程第 10 条の 2
労働安全衛生規則第 36 条第 8 号および 8 号の 2

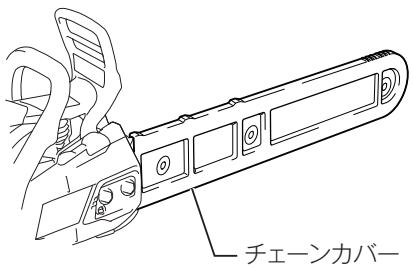
⚠ 注意

1. 行政機関では、チェンソーの 1 日の使用時間は 2 時間以内、連続操作時間は 10 分以内にするよう指導しています。作業時間の組み合わせを上手に計画してご使用ください。
2. 寒いときの休憩や昼食時には暖をとり、身体の保温に心がけてください。
3. チェーン刃を取り扱うときは、手袋を着用してください。
   ・ けがの原因になります。



4. 2 台以上で作業するときは、安全な距離を確保してください。
   ・ 事故の原因になります。
5. ガイドバー、チェーン刃の取り付け、チェーンオイルの自動給油量を調整するときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
   ・ エンジンをかけたままですと、不意にチェーン刃が回りだしたときに、事故の原因になります。また停止直後では高温となっているため、不用意に触れるとやけどの原因になります。

6. エンジンを始動させるとき、チェーン刃が材料や他のものに当たっていないことを確認してください。
   ・ 本機が引っ張られたり戻されたりして、けがの原因になります。
7. 切断材料に石、釘などの異物がないことを確かめてください。
   ・ チェーン刃が異物に当たると異物が飛散したり、チェーン刃の破片が飛散して、けがの原因になります。
8. 切断材料は、しっかり固定してください。また切り落とし材に十分注意してください。
   ・ けがの原因になります。
9. 切り落とし寸前や切断中に材料の重みでガイドバーが材料に挟み込まれないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。
   ・ ガイドバーが挟み付けられるとけがの原因になります。
10. 使用を中断したり、移動するときは、必ずエンジンを停止し、チェーン刃がむき出しにならないようガイドバーにカバーをしてください。
    ・ けがの原因になります。
11. 使用しないときは、ガイドバーにカバーをし、チェーン刃がむき出しにならないようにして、お子様の手の届かない場所に保管してください。
    ・ けがの原因になります。



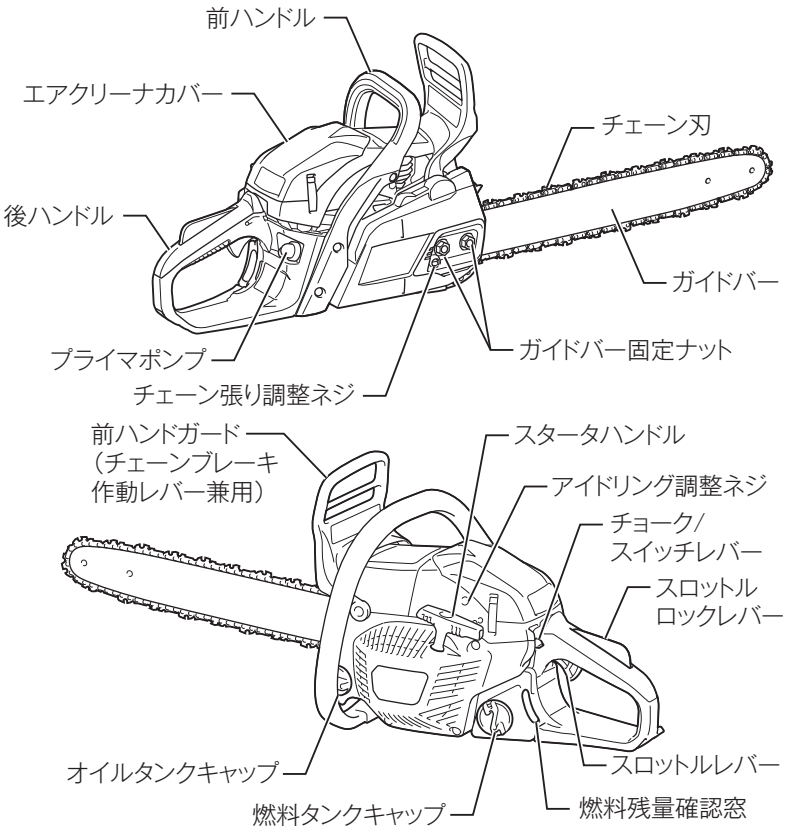
仕様

区分	項目	単位	MEA3600M	MEA3600L
エンジン	形式	—	単気筒空冷２ストローク	
	排気量	mL	35.2	
	キャブレタ	—	ダイヤフラム式	
	点火方式	—	デジタル自動進角機能付電子制御式（Digital CDI）	
	スパークプラグ	—	NGK BPMR8Y	
	始動方式	—	リコイルスタータ	
	クラッチ	—	自動遠心式	
燃料	混合比	—	50（無鉛ガソリン）：1（２ストローク専用エンジンオイル）※マキタ純正２ストローク専用エンジンオイルまたは JASO 分類 FC グレード以上のオイル	
	タンク容量	L	0.31	
チェーンオイル	使用オイル	—	マキタチェーン専用オイル	
	タンク容量	L	0.26	
	給油方式	—	自動	
切断部	チェーン刃形式	—	91PX-52E	91PX-56E
	ガイドバー長さ	mm	350	400
質量		kg	4.2	
寸法（長さ×幅×高さ）		mm	388 × 230 × 272	
振動３軸合成値	前ハンドル	m/s^2	3.3	
	後ハンドル	m/s^2	3.4	

- 振動３軸合成値は、ISO22867 規格に基づき測定。
- 振動３軸合成値についての詳細は JEMA［(社）日本電機工業会］ウェブサイト：(http://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html) をご参照ください。

質量・寸法は、ガイドバー、チェーン刃をのぞいた値です。
改良のため、主要機能および形状などは変更することがありますのでご了承ください。

各部の名称



標準付属品

- ボックスレンチ
- ガイドバー
- チェーンカバー
- チェーン刃

別販売品のご紹介

・ 別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げ販売店もしくは、当社営業所へお問い合わせください。

・ チェーン刃
91PX-52E 部品番号　A-55653（MEA3600M）
91PX-56E 部品番号　A-55669（MEA3600L）

・ ガイドバー
部品番号　165201-8（MEA3600M）
部品番号　165202-6（MEA3600L）

・ チェーンオイル 1 L × 1 個入
部品番号　A-34702

・ チェーンオイル 4 L 缶入
部品番号 A-05153

・ 丸ヤスリ（ハンドル付き）
部品番号 A-44024

・ 丸ヤスリ（ハンドル無し）
部品番号 D953003090

・ 平ヤスリ
部品番号 D953003060

・ ハンドル
部品番号 D953004010

・ デプスゲージジョインタ
部品番号 D953100090

ガイドバー、チェーン刃の取り付け方

⚠ 注意

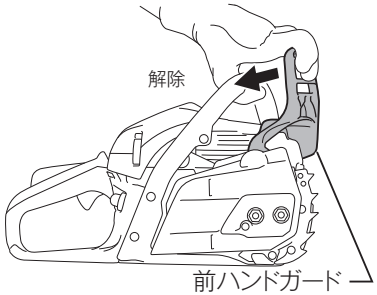
ガイドバー、チェーン刃の取り付け、取りはずしを行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

- エンジンをかけたまま行うと、不意にチェーン刃が回りだす恐れがあり、事故の原因になります。
- 停止直後では、エンジンが高温となっているため、不用意に触れるとやけどの原因になります。

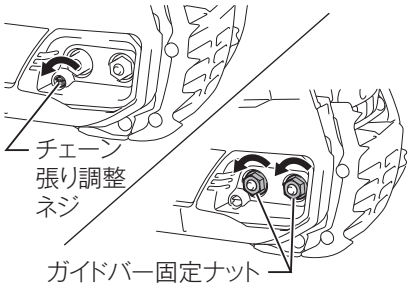
チェーン刃を取り扱うときは、手袋を着用してください。

- けがの原因になります。

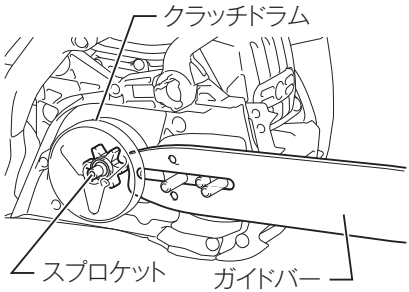
1. チェーンカバーをはずす前に、チェーンブレーキを解除します。
   - チェーンブレーキは、前ハンドガードを手前に引くと解除できます。



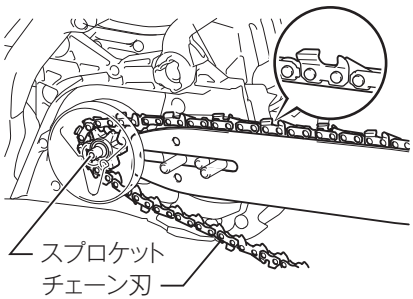
2. チェーン張り調整ネジを反時計周りに回し、アジャストピンをスプロケット側に寄せます。
3. ガイドバー固定ナットをゆるめ、チェーンカバーを本体からはずします。



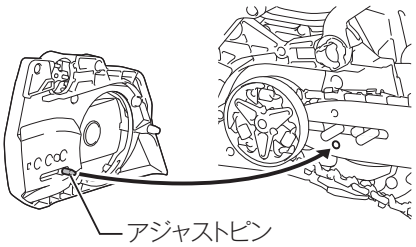
4. ガイドバーを本体にセットします。このときにガイドバーをクラッチドラムの内側になるようにセットしてください。

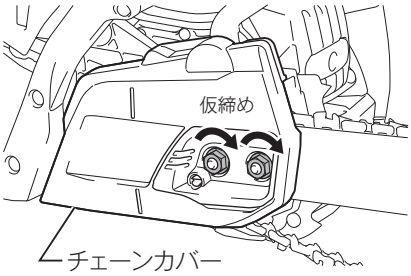


5. 刃の向きに注意して、チェーン刃をスプロケットにかけ、スプロケット側からガイドバー先端に向かって順にガイドバーの溝にチェーン刃をセットします。

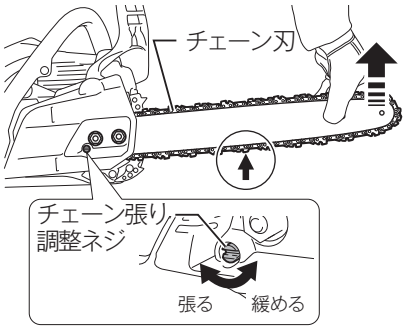


6. チェーンカバー内側のアジャストピンとガイドバーの丸穴（下側）の位置を合わせ、チェーンカバーと本体をガイドバー固定ナットで手ではずせる程度に仮締めします。

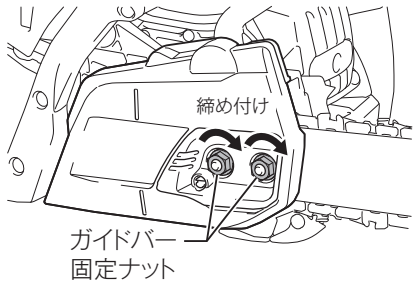




7. ガイドバーの先端部側を持ち上げながら、チェーン張り調整ネジを回してチェーン刃を張ります。
チェーン刃の調整の詳細はチェーン刃の調整の項目を参照してください。



8. 調整が終わったら、ガイドバーの先端部側を持ち上げながら、レンチでガイドバー固定ナットを時計回りに確実に締め付けます。



チェーン刃の調整

⚠ 警告

チェーン刃は、必ず適正な張りに調整してください。
- 張り方が緩いと、ガイドバーからチェーン刃がはずれ、けがの原因になります。

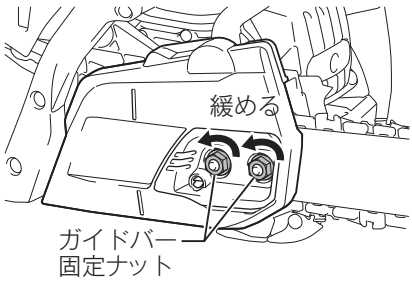
⚠ 注意

チェーン刃の調整をするときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- エンジンをかけたままですと、不意にチェーン刃が回りだしたときに、事故の原因になります。
- また停止直後では、高温となっているため、不用意に触れると、やけどの原因になります。

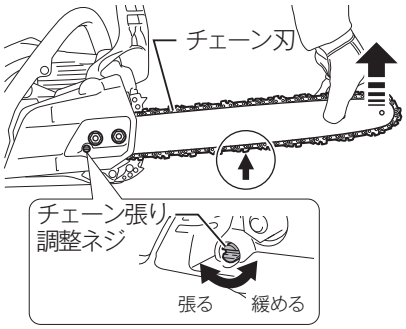
チェーン刃を取り扱うときは、手袋を着用してください。
- けがの原因になります。

調整を実施する前に、前ハンドガードを手前に引いてチェーンブレーキを解除してください。

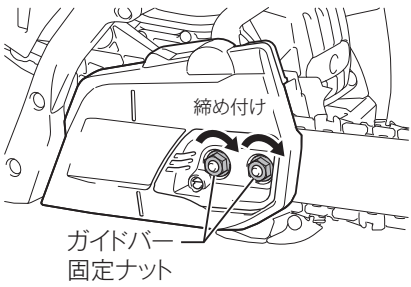
1. ガイドバー固定ナットをレンチで反時計回りに回して緩めます。



2. ガイドバー先端部を軽く持ち上げた状態で、チェーン張り調整ネジを回してガイドバー底部にチェーン刃が軽く接触する程度にチェーン刃の張りを調整します。
チェーン張り調整ネジは時計回りに回すとチェーン刃の張りが強くなり、反時計回りに回すとチェーン刃の張りが緩くなります。



3. ガイドバー先端部を持ち上げた状態でガイドバー固定ナットを時計回りに回して、確実に締め付けます。



注

- チェーン刃の張りすぎは、ガイドバーの摩耗やチェーン刃破損の原因になります。必ず適正な張りに調整してください。
- チェーン刃が新しいうちは伸びやすいので、チェーンの張りをこまめに調整してください。
- チェーン刃の張り方が緩いときは、チェーン刃がガイドバーからはずれる原因となります。
- ガイドバーは両面使用できます。ガイドバーのかたよった摩耗を防ぐため、新品のチェーン刃に取り替えるたびに、ガイドバーを反転してご使用ください。

燃料の給油

⚠ 警告

燃料の混合および給油をするときは、必ず次の事項をお守りください。
引火・火災の原因になります。

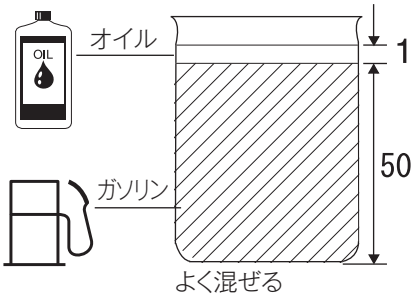
- 火気のない場所で行ってください。また通気のよい場所で行い、タバコを吸ったり、火気を近づけないでください。
- 燃料給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。

燃料の取り扱いには十分注意してください。

- 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、炎症の恐れがあります。身体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

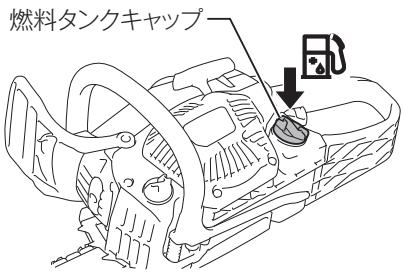
1. **燃料について**

- 本機に使用する燃料は、無鉛ガソリンと２ストローク専用エンジンオイル（マキタ純正２ストローク専用エンジンオイルまたは JASO 分類 FC グレード以上のオイル）を 50：1 の割合で混ぜた混合ガソリンです。
- 無鉛ガソリンに混ぜるオイルの種類や混合する割合が異なりますと、エンジン不調の原因になりますので指定されたオイルを指定された割合で混合してください。



2. **燃料の給油**

- 燃料タンクキャップが上になるように本機を置いて、燃料タンクキャップをはずしてください。
- 入れすぎてこぼさないように注意して、混合ガソリンを給油してください。給油が終わりましたら、燃料タンクキャップを手でしっかり締めてください。



注

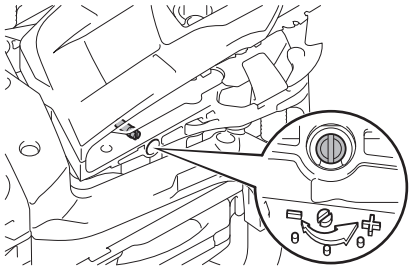
- 燃料タンクキャップを開けるときは、ゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。
- 燃料とチェーンオイルの給油口を間違わないように注意してください。
- ガソリンだけでは絶対に運転しないでください。
- 長期間保管して古くなった燃料は使用しないでください。故障の原因になります。
- 燃料タンクにゴミなどの異物が入りますと、故障の原因になります。ゴミなどが入らないように気を付けてください。

チェーンオイルの給油

⚠ 注意

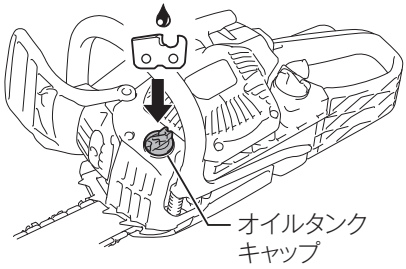
チェーンオイルの自動給油量を調整するときは、必ずエンジンを停止させてから調整してください。
- エンジンをかけたままですと、不意にチェーン刃が回りだしたときに、事故の原因になります。

1. チェーンオイルについて



- チェーンオイルは、チェンソーを運転すると自動で吐出されます。
- 吐出量は、オイル調整ネジを回すことによって３段階に調整できます。吐出量を増やすときはオイル調整ネジを反時計方向に、吐出量を減らすときはオイル調整ネジを時計方向に回してください。
- 使用するチェーンオイルは、マキタチェーン専用オイルをご使用ください。

2. チェーンオイルの給油



- オイルタンクキャップが上になるように本機を置いて、オイルタンクキャップをはずしてください。
- 入れすぎてこぼさないように注意して、チェーンオイルを給油してください。
  給油が終わりましたら、オイルタンクキャップを手でしっかり締めてください。

注

- 燃料とチェーンオイルの給油口を間違わないように注意してください。
- オイル調整ネジは無理に回すと部品が破損する恐れがあります。
- チェーンオイルの補給は、燃料を補給するたびに行ってください。
- オイルタンクにゴミなどの異物が入りますと、故障の原因になります。ゴミなどが入らないように気を付けてください。

始動・停止

⚠ 警告

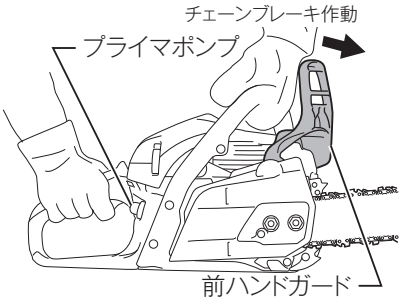
燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも3 m 以上離れてください。
・ 引火・火災の原因になります。

⚠ 注意

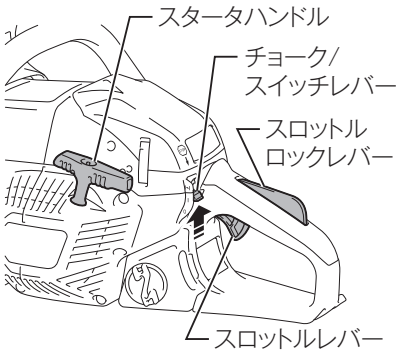
エンジンの始動は、安定のよい場所で行ってください。
・ 事故の原因になります。
エンジンを始動させるとき、チェーン刃が材料や他のものに当たっていないことを確認してください。
・ 機械が引っ張られたり戻されたりして、けがの原因になります。

1. エンジンが冷えている場合の始動

1. チェーンブレーキを作動状態にします。
2. 燃料がプライマポンプに入るまで、プライマポンプを繰り返し押します。

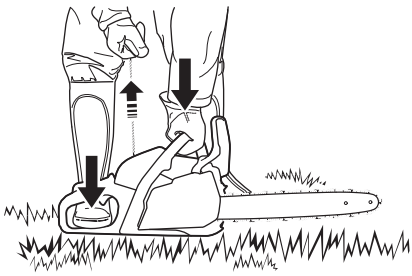


3. チョーク / スイッチレバーを一番上に上げチョークポジションにします。この操作により、スロットルは少し引いた位置に固定されます。

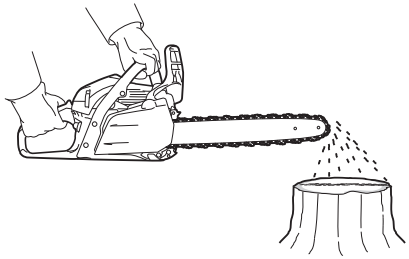


|-| チョークポジション
| 始動ポジション
0 停止ポジション

4. チェンソーが動かないようにしっかり押さえ、スタータハンドルをゆっくり引き出します。
5. スタータハンドルに抵抗を感じたら勢いよく引き出し、初爆するまで繰り返します。
6. 初爆したらチョーク / スイッチレバーを始動ポジションに戻し、スタータハンドルを数回引くと始動します。

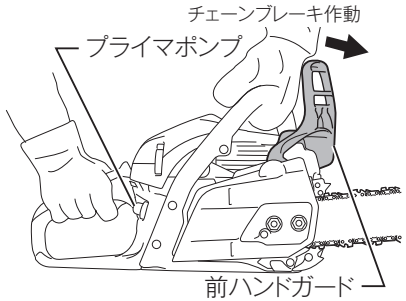


7. エンジンが始動したら、直ちにスロットルレバーを引いてスロットルの固定を解除し、チェーンブレーキを解除してください。
8. 2 ～ 3 分間スロットルレバーを引いたり、戻したりを繰り返して、暖機運転を行います。気温が低いときには、十分な暖機運転が必要です。
   エンジンの回転が安定し、低速から高速回転にしたときに滑らかに加速するようになれば暖機運転完了です。
9. 暖機がすみましたらチェーンオイルが吐出されているか確認します。スロットルレバーを引き、数秒間高速回転させたとき、チェーンオイルが飛散していれば正常に吐出されています。

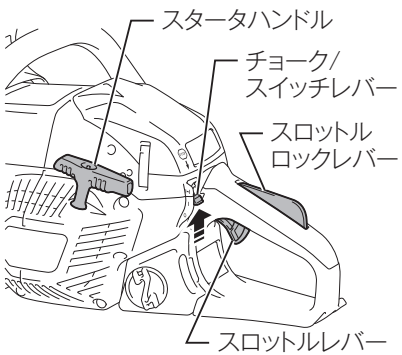


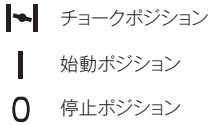
2. エンジンが暖まっている場合の始動

1. チェーンブレーキを作動状態にします。
2. 燃料がプライマポンプに入るまで、プライマポンプを繰り返し押します。

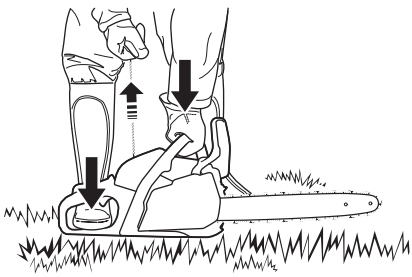


3. チョーク / スイッチレバーを一番上のチョークポジションにして、そのまま始動ポジションに戻します。この操作により、スロットルは少し引いた位置に固定されます。





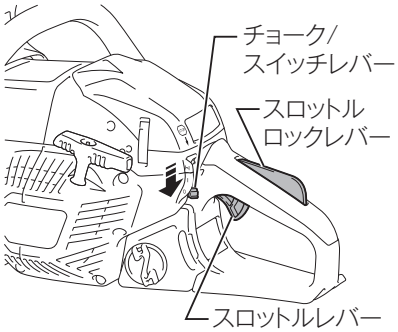
4. 本機が動かないようにしっかり押さえ、スタータハンドルを引いてエンジンを始動します。2 ～ 3 回引いても始動しない場合は、「エンジンが冷えている場合の始動」の手順で始動してください。
5. エンジンが始動したら、直ちにスロットルレバーを引いてスロットルの固定を解除し、チェーンブレーキを解除してください。



注

- チョーク / スイッチレバーをチョークポジションにしたままスタータハンドルをいつまでも繰り返して引き続けますと、燃料を吸い込みすぎて始動しにくくなります。
- 燃料を吸い込みすぎたときは、スパークプラグをはずし、スタータハンドルをゆっくり数回引いて余分な燃料を出してください。また、スパークプラグの電極部を乾かしてください。
- スタータハンドルを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。また､スタータハンドルは急に手放さず静かに戻してください。
- 無負荷高速運転（空ふかし）はエンジンの寿命を縮めますのでむやみにしないでください。
- 本機は加速ポンプ付きキャブレタを採用しています。
  加速ポンプ付きキャブレタは、エンジン停止状態でもスロットル操作（スロットルレバーを握って離す）を繰り返し行うと、燃料の吸い込みすぎと同じ状態となり、始動しにくくなることがあります。

3. 停止
・ エンジンを停止させるには、スロットルレバーを戻し、チョーク / スイッチレバーを停止ポジションまで押し下げます。



|-| チョークポジション
| 始動ポジション
0 停止ポジション

注

・ チョーク / スイッチレバーは停止ポジションまで押し下げた後指をはなすとバネ力で始動ポジションに戻ります。（エンジンは停止します。）
・ チョーク / スイッチレバーを停止ポジションからさらに押し下げると、停止ポジションで保持され、スタータハンドルを引いてもエンジンは始動しません。

チェーンブレーキ

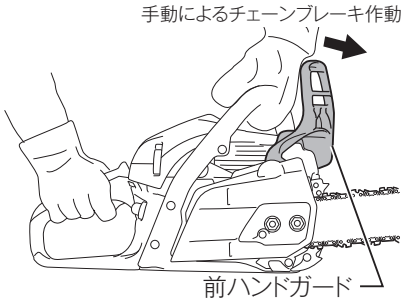
⚠ 注意

チェーンブレーキを解除するときは、必ずエンジンをアイドリング状態にしてください。

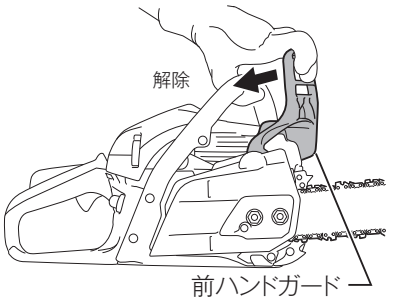
- スロットルレバーを握ったままの状態や、スロットルが始動位置に固定された状態のままブレーキを解除すると、急にチェーン刃が回りだす恐れがあり、事故の原因になります。

本機は万一、キックバック（はね返り）が生じた場合、危険を少なくするために急ブレーキ装置を備えています。

1. **チェーンブレーキの作動**
   - チェーンブレーキは、使用中にはね返り（キックバック）が生じたときの、危険を少なくするための装置です。このチェーンブレーキは、ガイドバーの先端で切断したり、ガイドバーの先端が枝などに触れた場合など強いはね返りが発生したときに自動的に作動し、チェーン刃を瞬時に停止させます。
   - 前ハンドガードを前方へ倒すことにより、手動でチェーンブレーキを作動させることができます。



2. **チェーンブレーキの解除**
   - チェーンブレーキを解除するには前ハンドガードを手前に「カチッ」と音がするまで引き戻します。



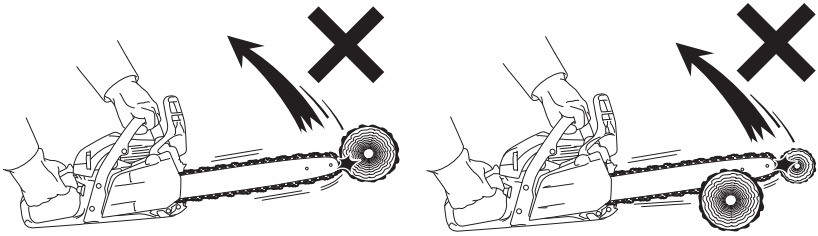
注

- **チェーンブレーキの作動を作業前に確認してください。**
- **使用前にチェーンブレーキが作動していないか確認してください。**

切断作業

⚠ 警告

使用時は、両手で確実にハンドルを保持し、片手では作業しないでください。
・ 本機をコントロールできず、けがの原因になります。
使用中は、チェーン刃、ガイドバーや回転部に手や顔などを近づけないでください。
・ けがの原因になります。
ガイドバーの先端部での切断はしないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないよう作業してください。
・ 本機がはね返り（キックバック）、けがの原因になります。



〔事業者の方へ〕
樹木を伐り倒す作業や伐り倒した樹木を切断する作業を行う場合は、法、規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。
（関連法令）
労働安全衛生法第 59 条第 3 項
安全衛生特別教育規定第 10 条の 2
労働安全衛生規則第 36 条第 8 号および 8 号の 2

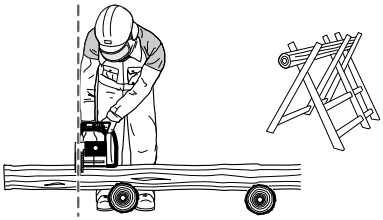
⚠ 注意

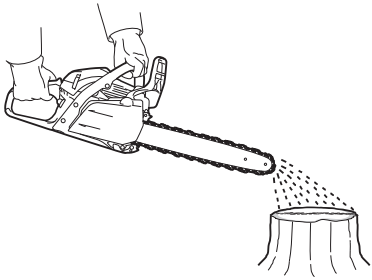
切断材料は、しっかり固定してください。また切り落とし材に十分注意してください。
・ けがの原因になります。
2 台以上で作業するときは、安全な距離を確保してください。
・ 事故の原因になります。

切断作業

◎基本的な作業

1. 回り止めやうまなどを用いて、木材が動かないように固定します。
2. エンジンを始動してください。
3. ハンドルを両手でしっかり握り、スロットルレバーを引いて全速運転し、ガイドバーの先端からチェーンオイルが吐出しているか確認します。
4. ガイドバーの中央部付近を木材に当て、そのまま真下へ本機を押し付けて切断します。
5. 切断が終わりましたらスロットルレバーを戻しエンジンを停止してください。

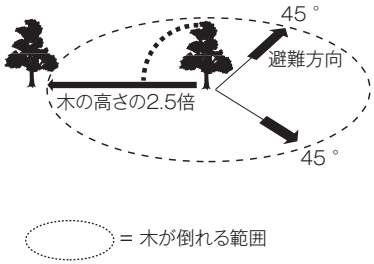


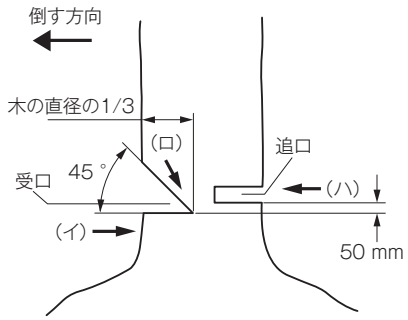


◎各種の切断作業例

1 . 伐木作業（立ち木を倒す作業）

1. 倒す木の傾き、大きな枝の位置、風向きなどを考えて倒す方向、避難する方向を決めます。
2. 周囲の障害物を取り除き、足場の安全を確認します。倒す木が斜面にある場合は、必ず山側に安全な足場を確保してください。
3. 図のように木を倒す方向に、直径の 1 /3 程度の切り込みを（イ）、（ロ）の順に入れて受口を作ります。
4. 受口の水平部より約 50 mm 上部に、受口の水平部と平行に追口を切り込んでください。（ハ）
5. 追口の切り込みが樹芯を越えますと木が倒れ始めます。
6. 木が所定の方向に倒れそうもない場合やチェーン刃、ガイドバーが挟まれたときは作業を中止し、追口にクサビを入れて倒れる方向を矯正したり、切り口を広げてからチェーン刃やガイドバーを取りはずしてください。

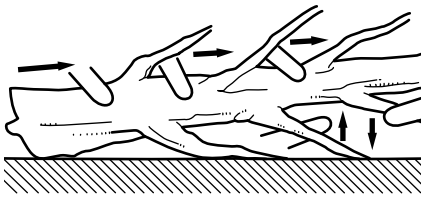




切断作業

2. 枝払い作業

1. 倒した木の枝払いは、まず上部、側面の枝を一方向より切り落としてください。
2. 次に幹を支えている大きな枝を残し、地面側の枝を下側より切り落としてください。

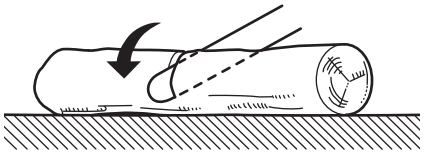


3. 造材作業（倒した木を切断する作業）

・ 丸太の置かれている状態により切断方法が異なりますので、次のように切断してください。

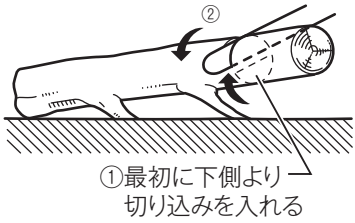
1）丸太全体が地面に接している場合

1. 丸太の上部から切り始め、そのまま真っ直ぐに切り下げます。
2. 切り終わりにチェーン刃が地面に触れないよう注意してください。



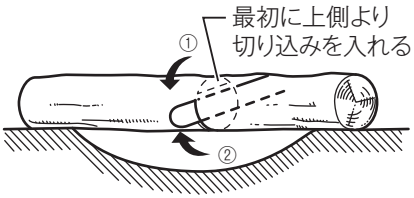
2）丸太の一端が支持されている場合

1. 最初に丸太の下側より直径の1/3まで切り込みます。
2. 次に下側から入れた切り込みと一致するように位置を合わせて上部から切断します。



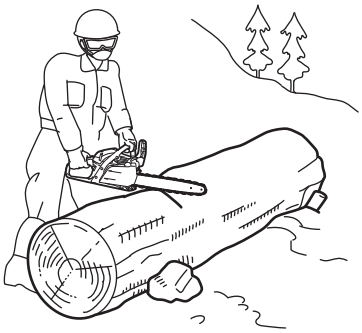
3）丸太の両端が支持されている場合

1. 最初に丸太の上部より直径の1/3まで切り込みます。
2. 次に上部から入れた切り込みと一致するように位置を合わせて下側から切断します。



4）斜面で丸太を切断する場合

1. 最初に丸太がころがって落ちないようにクサビや杭などを用いて丸太を支えます。
2. 次に山側に立って、1）～3）の内の適した方法で作業してください。



⚠ 注意

点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また、スパークプラグからプラグキャップをはずしてください。

・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による、事故の原因になります。

注

・ 点検整備するときは、本機の汚れを落とし、ゴミやホコリのかからないきれいな場所で行ってください。

チェーン刃の目立て

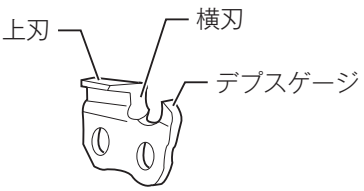
⚠ 警告

チェーン刃は正しく目立てしてください。
- 特にデプスゲージの寸法が大きくなりすぎますと、チェーン刃が破断しやすくなり、けがの原因になります。

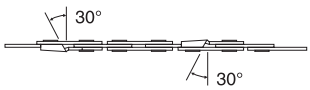
1）上刃および横刃の目立て

1. ガイドバーに対して丸ヤスリを30°傾け、丸ヤスリの直径の1/5が上刃より出るようにチェーン刃に当ててください。

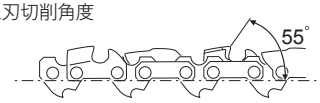
チェーン刃各部の名称

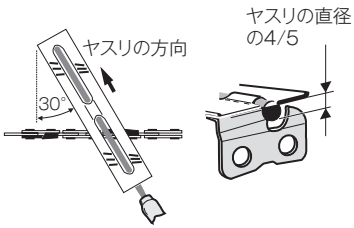


上刃目立て角度



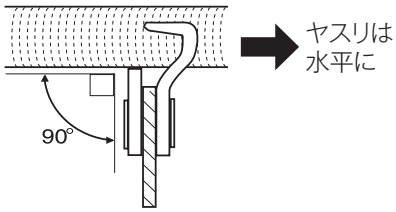
上刃切削角度





2. 丸ヤスリの水平を保って、押すときだけヤスリをかけ、手前に引くときは刃部にヤスリを当てないようにして、上刃および横刃の目立てをしてください。

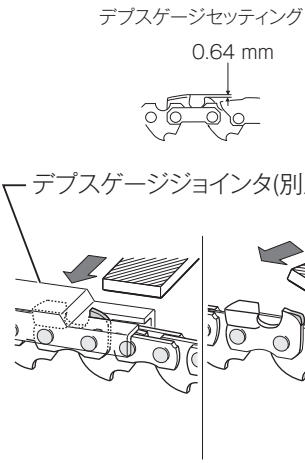
刃の内側から外側に目立てる



2）デプスゲージの調整方法

デプスゲージはチェーン刃の切り込みしろを適正（0.64 mm）に保つためのものです。

1. デプスゲージジョインタ（別販売品）を図のようにセットし、溝から出た部分を平ヤスリで削り落とします。
2. デプスゲージの角に丸みを付けます。
3. デプスゲージの調整が終わりましたら、オイルに浸して切り粉を洗い落としてください。

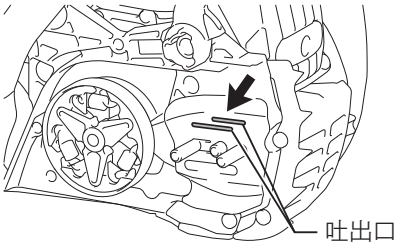


注

- 刃部の目立てには、外径が 4.0 mm の目立て専用丸ヤスリを使用してください。

チェーンオイル吐出口の清掃

・ チェーンオイル吐出口は、作業終了後に清掃してください。

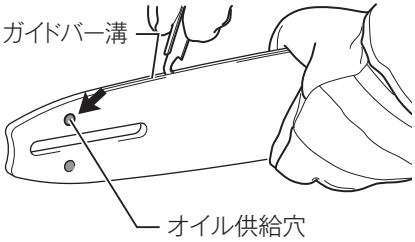


ガイドバーの清掃

⚠ 注意

取りはずしたガイドバーは、正しく取り付けてください。取り付け方を誤ると、使用中に緩む恐れがあります。

・ ご使用中に、切りくずがガイドバーの溝やオイル供給穴につまることがあります。
・ 切りくずがガイドバーの溝やオイル供給穴につまりますと、チェーンオイルがチェーン刃全体に行き渡らなくなります。チェーン刃を目立てや交換するときに、ガイドバーの溝やオイル供給穴に入った切りくずを除去してください。

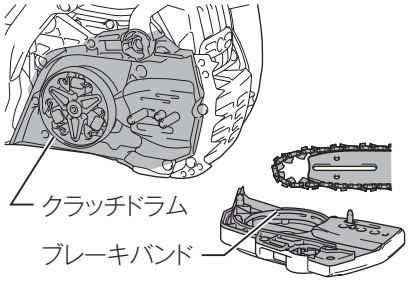


注

・ **ガイドバーのかたよった摩耗防止のために時々、上下を反転して組み付けてください。**

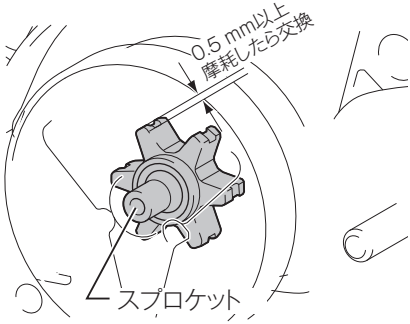
チェーンカバーの清掃

・ チェーンカバーを取りはずし、中にたまった木くずなどを除去し、クラッチドラム、ブレーキバンドの周辺をブラシなどで清掃してください。



スプロケットの点検

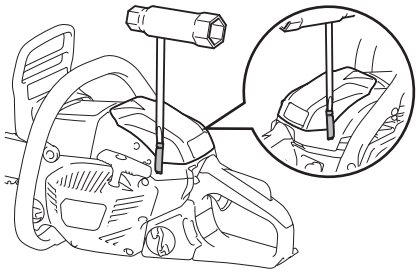
・ スプロケットが摩耗していたり、損傷していないか点検する。
・ もし異常が見付かったときは直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店または当社営業所に交換をお申し付けください。



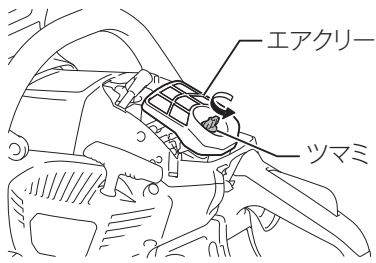
エアクリーナの清掃と取り替え

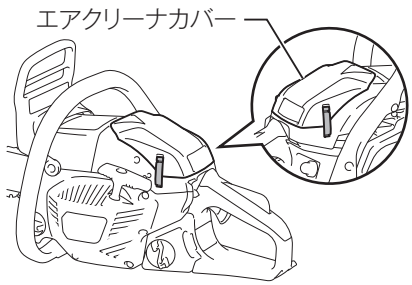
・ エアクリーナが目づまりするとエンジン不調の原因になります。作業終了後に、次の手順で清掃してください。

1. 2ヶ所のカバー留め具をレンチではずし、エアクリーナカバーを取りはずします。
2. キャブレタ内にゴミなどが入らないように、チョーク / スイッチレバーをチョークポジションに入れておきます。



3. エアクリーナを留めているツマミを緩め、エアクリーナを上に引き抜きます。取りはずしたら、ホコリなどがキャブレタに入らないように、きれいな布などでキャブレタ入り口をおおってください。
4. エアクリーナは軽く叩くかエアコンプレッサを使用してゴミやホコリを内側から吹き落としてください。（目づまりの原因となりますので、ブラシは使用しないでください。）
   特に汚れがひどいときは、ぬるま湯と洗剤でよく洗い、十分乾かしてから使用してください。
5. 清掃が終わったら、エアクリーナを十分に乾燥後元の位置に差し込み、ツマミを締めて固定します。
6. チョーク / スイッチレバーを停止ポジションに入れ、スロットルレバーを一度引き、スロットルのロックを解除します。
7. クリーナカバーをかぶせ、2ヶ所のカバー留め具で取り付けます。





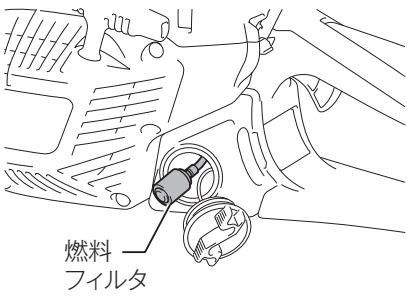
注

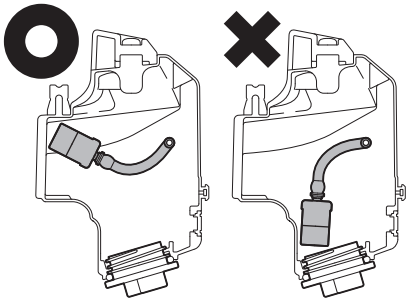
・ **エアクリーナが変形や破損している場合は、新品と交換してください。**
エンジン破損の原因になります。

燃料フィルタの清掃と取り替え

燃料フィルタがつまるとエンジン不調やエンジン故障の原因になります。定期的に点検してください。

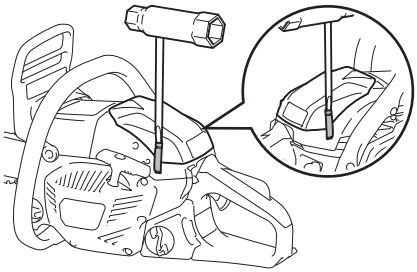
1. 燃料タンクキャップをはずしてガソリンを抜きます。
2. 針金などを使って燃料フィルタを燃料注入口から引き出し、付着したゴミを取り除きます。
3. 汚れがひどいときは、燃料管から燃料フィルタを引き抜いて新品と交換します。
4. 燃料管の折れ曲がりに注意して、燃料タンクに燃料フィルタを戻します。このとき、燃料フィルタの向きに注意してください。

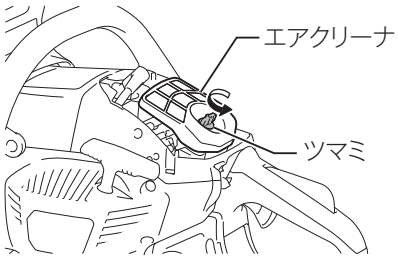




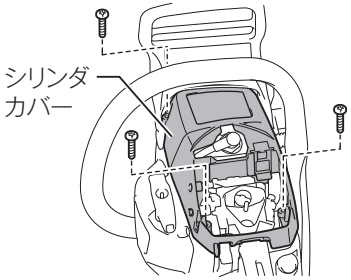
マフラ固定ネジの確認

1. エアクリーナカバーを取りはずし、エアクリーナを取りはずします。
   キャブレタ内にゴミなどが入らないように、チョーク / スイッチレバーをチョークポジションに入れておきます。

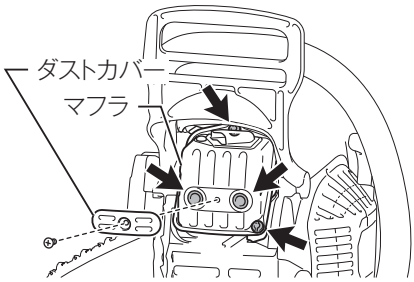




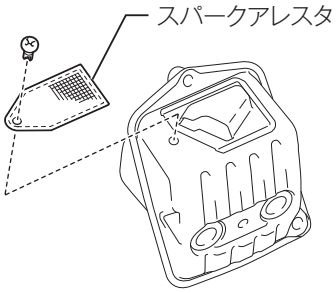
2. シリンダカバーを取りはずします。



3. マフラからダストカバーを取りはずします。
4. マフラの固定ネジがしっかりと締め付けられているか確認してください。
   緩んでいる場合は、締めすぎに注意して締め付けてください。



スパークアレスタの確認

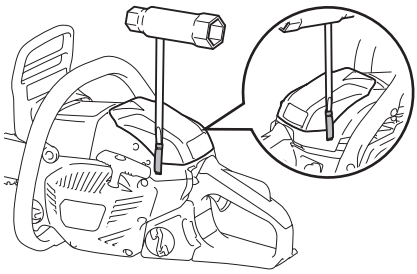


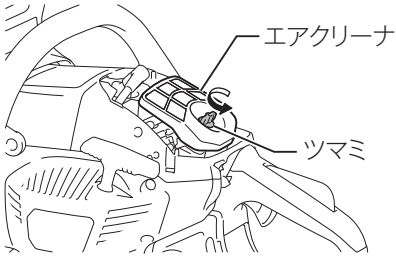
- 本機のマフラはカーボンが火の粉となって排気口から放出されるのを防ぐためにスパークアレスタを装着しています。
- 取付ボルトをはずしてマフラからスパークアレスタを引き抜いてください。
- スパークアレスタが破損していないか確かめ、破損している場合はお買い上げの販売店または当社営業所にお申し付けください。
- スパークアレスタにカーボンが付着している場合は、ワイヤブラシなどで取り除いてください。

シリンダ周りの清掃

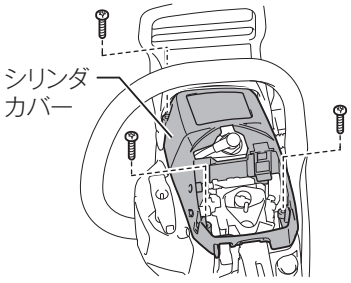
・ 長時間運転しますとシリンダ周りに切り屑がたまり、オーバーヒートの原因となります。すき間を清掃してください。

1. エアクリーナカバーを取りはずし、エアクリーナを取りはずします。
キャブレタ内にゴミなどが入らないように、チョーク / スイッチレバーをチョークポジションに入れておきます。

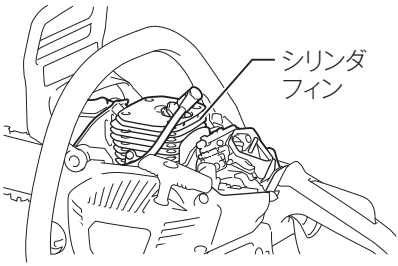




2. シリンダカバーを取りはずします。



3. ブラシやエアブローを用いてシリンダ周りを清掃してください。
4. シリンダフィンのすき間、シリンダと周辺部品との間にたまった切りくずを除去してください。



注

- 目を保護するためエアブローを用いる際には保護めがねを着用してください。
- 電気回路やイグニッションコードを傷つけないように注意してください。
- 清掃後シリンダカバーを本機に取り付ける際、高圧コードとリード線をシリンダカバーで挟み込まないように注意してください。

スタータ

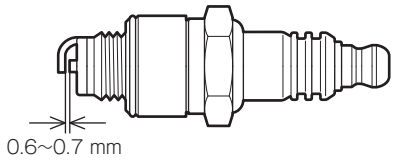
⚠ 警告

大変危険ですので、スタータを分解しないでください。
- 修理の際はお買い上げの販売店または当社営業所にお申し付けください。

スパークプラグの点検と整備

- スパークプラグは指定のものをご使用ください。

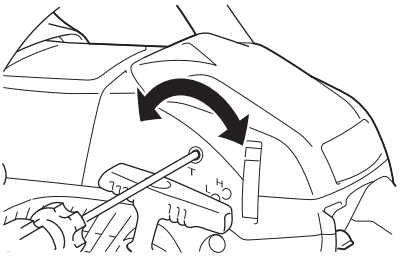
1. プラグキャップをはずし、スパークプラグをはずします。
2. 電極のすき間が 0.6 ~ 0.7 mm になっているか確認してください。もし広がりすぎたり狭すぎる場合は調整してください。



3. カーボンがたまったり、汚れている場合はワイヤブラシなどで取り除いてから取り付けてください。また摩耗したり、焦げているものは新品と交換してください。

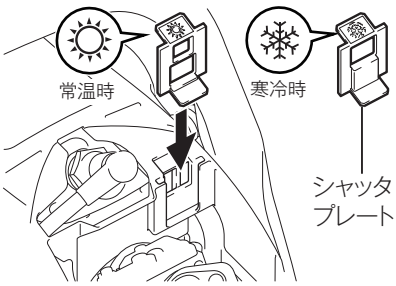
キャブレタ（気化器）の調整

- キャブレタは出荷時に燃料が最適に供給されるように調整してありますから、調整しないでください。もし調整が必要になりましたら、当社営業所までお申し付けください。
- アイドリング時チェーン刃が回転するときは、チェーン刃が回らないようアイドリング調整を行ってください。
- また、アイドリング時にエンジンが停止してしまうときは、回転が安定するようにアイドリング調整を行ってください。



- 調整は図のアイドリング調整ネジ（T）を回してください。調整ネジは、右へ回すと回転が上がり、左へ回すと回転が下がります。

寒冷時の運転



- 冬季など高湿で気温が低い(0～5 ℃)ときに使用すると、キャブレタ内部が氷結し、エンジンが停止したり、出力の低下や、回転が不安定になることがあります。
  このようなときは、シャッタプレートを寒冷時の設定に切り替えてください。
- エアクリーナカバーとエアクリーナを取りはずしてください。
- シャッタプレートの挿入方向を、❄シンボルが上側になるように切り替えてください。
- 設定が終わりましたら、エアクリーナカバーとエアクリーナを戻してください。

注

- **外気温が 5 ℃以上のときは、必ず常温時の設定（☼シンボルが上側）に戻してください。**
  エンジンがかかりにくくなったり回転が不安定になるなど、エンジン不調の原因となります。

格納方法

⚠ 警告

燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

・ 停止直後では、やけどまたは引火、火災の原因になる恐れがあります。

⚠ 注意

ガイドバーにカバーをし、チェーン刃がむき出しにならないようにして、お子様の手の届かない場所に保管してください。

・ けがの原因になります。

・ 次の手順で燃料タンクから燃料を抜き、格納してください。

1. 燃料タンクキャップをはずして、燃料を抜きます。
2. 燃料タンクキャップを閉め、エンジンが停止するまで運転させます。
3. スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを数滴たらします。
4. スタータハンドルをゆっくり引き、エンジン内にオイルを行き渡らせスパークプラグを取り付けます。

注

・ 長時間ご使用にならないときは、燃料タンクやキャブレタなどから燃料を全部抜き、オイルタンクからチェーンオイルを全部抜いて、乾燥したきれいな場所に格納してください。

メモ

メモ

882728A0
NNP

株式会社マキタ
愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502
TEL.0566-98-1711（代表）